

神奈川県考古学会

考古かながわ 第54号

「発掘された日本列島」展の知られざる側面 —海外に向けた情報発信の役割—

W. エドワーズ

去る7月18日、江戸東京博物館で本学会のメンバー21名と一緒に今年度の「発掘された日本列島」展を見学した。鮮やかに復元された甲塚古墳の埴輪をはじめ全国から集まった数々の出土品をじっくりと観察できた。21年目を迎えたこの列島展は、すっかり考古学界の年中行事になっているが、実は国際交流に貢献する役割も果たしている。毎年、列島展が紹介する遺跡の中から主要なものがいくつか英訳され、日本考古学協会のホームページに公開されている。

その発端は、2002年に協会の国際交流委員会が「英語圏に向けて日本の考古学に関する情報をより多く提供する」課題を検討した際、「どのような情報が必要とされるだろうか」との問いがあった。それに対して、当時は一般会員として当委員会に出席していた私が、英語圏におけるアジアとくに日本研究の専門家が参加するいくつかのメーリングリストにアンケートを流して、意見を収集することになった。2002年3月の約2週間に実施した結果、66の回答が寄せられた（うち7割が「研究」や「大学レベル教育」に携わっていると答えた）。その中に「いい写真」や「地図および図面」というビジュアルな資料を求める声とともに、「学生向き」「大学教育に役立つ」「考古学専門でない者でもわかる」など、理解しやすい情報への希望が多く述べられた。また「列島展の図録の英訳」という具体案も2回ほどあった。

それを受けて、国際交流委員会が主催側の文化庁や出版社の了解を得て、2004年より列島展から一部の遺跡の英訳を日本考古学協会のホームページに載せることになった。毎年、展示される遺跡の中から、委員会が時代および地域のバランスや話題性を考慮しながら

ら8つぐらいを選別する。そして図録に載っている紹介文を私が翻訳して、その英訳と写真や図がインターネットで公開される。協会ウェブサイトのトップページの左上に「Noteworthy Archaeological Sites」（注目すべき考古学遺跡）の言葉にリンクが設けられ、クリックすると最新年度の目次ページに着く（現時点で2014年度、<http://archaeology.jp/sites/2014/index.htm>）。そこから各遺跡の個別ページへのリンクがあり、また目次ページ左上にある「SITE INDEX」というリンクから過去の分の総目次（<http://archaeology.jp/sites/siteindex.html>）に着く。そこからは2004～2013年度の遺跡の紹介がリンクされている。

私は2010年に国際交流委員会を退任したが、英訳は現在までそのまま続けている。こうして2004～2014年まで合計88遺跡について、列島展の図録に載っている説明文の英訳および写真や図がインターネット上で紹介されている。なかには吉野ヶ里や高松塚など著名な遺跡や石見銀山のように世界遺産リストに最近登録されたものもある。神奈川県の遺跡としては江戸時代の早川石丁場群・関白沢支群（2007年）、幕末・明治の山下居留地（2009年）、および中世の下馬周辺遺跡（2014年）も紹介されている。一般向きの内容とはいえ、ある程度は海外の方々に受け入れられている。私はかつて、韓国考古学を専門とするあるアメリカ人から「毎年インターネットに出るのを楽しみにしている」と直接に言われ、やりがいを感じたこともある。

しかし、全てが順調に進んだわけではない。委員会の検討で遺跡を選択してから、主催側である文化庁に公開の許可をお願いすることになっている。形式的なやりとりとなってきた2010年に突然、先方が1つの遺跡の英訳・公開に難色を示した。対象は徳島県鳴門市の板東俘虜収容所跡だったが、第一世界大戦中にドイツ兵捕虜の収容施設が調査され、確認された製パン所や兵舎、合わせて当時の写真等の資料で捕虜の生活を描く内容であった。なぜか、文化庁より敏感な反応を引き出した。「戦争に関する歴史認識が訳文により微妙に変わる危惧がある」との理由で他の遺跡を選ぶようにと、実質的に反対された。

それを受けた国際交流委員会は真剣に悩んだ。「既刊

総会報告

去る2015(平成27)年5月9日土曜日、2015度の神奈川県考古学会総会が開催されました。総会終了後には、恒例のかながわ考古学トピックスを開催いたしました。総務が司会を務め、岡本会長からの挨拶に続き、次第に沿って討議が行われました。

議事1：2014年度事業報告

【総務】2014年5月10日神奈川県考古学会2014年度総会を開催(於：神奈川県埋蔵文化財センター研修室)、役員会を2014年4月16日、7月16日、11月19日、2015年3月18日の4回、幹事会を2014年5月21日、9月17日、2015年1月21日の3回実施(於：かながわ労働プラザ)。**【会誌】『考古論叢神奈河』21集**を2015年3月30日刊行。**【連絡誌】『考古かながわ』52号**を2014年9月25日、53号を2015年2月20日に発行。**【講座】2015年2月22日「相模国を創る—古代の役所と寺院—」**開催(於：茅ヶ崎市役所分庁舎6階コミュニティホール)、参加185名。**【発表会】2014年10月26日第38回神奈川県遺跡調査・研究発表会**開催(於：横浜市歴史博物館講堂)、参加137名。**【見学会】第1回2014年9月6日「発掘された日本列島2013」展**(於：東京都江戸東京博物館)の見学等、参加17名。第2回2015年1月11日「かながわの遺跡展『発掘された御仏と仏具—神奈川の古代・中世の仏教信仰—』」展(於：神奈川県立歴史博物館)見学、参加26名。第3回2015年3月21日「古代高座郡関連の遺跡めぐり—茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群をさぐる—」参加28名。**【ホームページ】Web版「考古かながわ」**の管理・運営。**【20周年記念論集】2015年3月30日刊行。**

議事2：2014年度収支決算報告

総務担当から2014年度収支決算について収入と支出の内訳の説明がありました。続いて監事の大上周三氏、鈴木次郎氏から会

行物中から... 協会の責任で」選択し翻訳して、協会のホームページに公開しようと「適切と判断した項目を文化庁が変更を指示する」ことは「蓋し越権行為である」云々と議論されたが、結局は飲み込むことにした。なぜか、反抗することによって万が一文化庁との関係がまずくなり、将来的に列島展の内容が使えなくなるのは怖かった。毎年是全国から注目される発掘成果を集め、写真なども付けて一般向きに編集するという作業は、協会の1つの委員会が独自で行うには到底無理な話である。言い換えれば、海外に日本の発掘成果を紹介するため列島展は非常に便利な資料であって、続けてその目的に活かしていきたいと思う。

計監査の報告が行われ、出席会員の拍手にて承認されました。

議事3：2015年度事業計画

【総務】2015年5月9日(土)2015年度神奈川県考古学会総会開催。2015年4月15日第1回役員会開催、以降隔月にて役員会・幹事会を開催。日本考古学協会総会にて併催の図書交換会に参加。**【会誌】『考古論叢神奈河』22、23、24集**の刊行。**【連絡誌】『考古かながわ』54号、55号**の発行。**【講座】2016年冬に講座開催予定。【発表会】2015年11月に第39回神奈川県遺跡調査・研究発表会**を開催。**【見学会】神奈川県内を中心に発掘調査現場、博物館等で年3回程度開催。【ホームページ】神奈川県考古学会ホームページWeb版「考古かながわ」**の管理・運営。以上の内容について、拍手にて承認されました。

議事4：2015年度収支予算案

2015年度予算案(3頁参照)について、拍手にて承認されました。

議事5：役員の改選について

2014年度までで任期満了の役員7名が退任し、新たに3名の役員候補の紹介があり、出席会員の拍手にて承認されました。最後に、副会長からの挨拶があり、総会を終了いたしました。

神奈川考古学トピックス2015：

今回は、押木弘己氏から『「貞観」紀年銘木簡と伴出土器の様相』と題して、茅ヶ崎市本村居村B遺跡出土の紀年銘木簡と供出した土器の年代的位置づけについて、また横須賀市教育委員会の野内秀明氏から「東京湾要塞跡」と題し、国指定史跡になった明治期の国防に関わる遺構群とその調査成果、保存活用への取り組みについてお話しいただきました。

議事2 2014年度収支決算報告・会計監査報告

2014年度収支決算書

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,008,000	987,000	▲ 21,000	本年度会費 3,000 × 285 名 = 855,000 次年度会費 3,000 × 5 名 = 15,000 旧年度会費 3,000 × 39 名 = 117,000
機関誌等売り上げ	200,000	257,300	57,300	発表会要旨 73,060 33回要旨(委託0.8) 1,040 × 8 部 = 8,320 35回要旨(委託0.8) 560 × ▲ 2 部 = ▲ 1,120 36回要旨(委託0.8) 560 × 16 部 = 8,960 37回要旨(会員) 300 × 3 部 = 900 37回要旨(一般) 500 × 7 部 = 3,500 38回要旨(会員) 300 × 75 部 = 22,500 38回要旨(一般) 500 × 60 部 = 30,000 考古論叢 45,400 (内訳) 論叢3(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢5(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢9(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢10(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢18委託0.8) 800 × 1 部 = 800 論叢19委託0.8) 800 × 6 部 = 4,800 論叢20(一般) 1,000 × 7 部 = 7,000 論叢20委託0.8) 800 × 31 部 = 24,800 講座要旨 138,840 講座横穴(一般) 1,200 × 5 部 = 6,000 講座城郭(一般) 1,500 × 1 部 = 1,500 講座古代史(一般) 1,000 × 2 部 = 2,000 講座弥生(一般) 1,500 × 2 部 = 3,000 講座貝塚(一般) 1,500 × 1 部 = 1,500 講座旧石器(会員) 500 × 1 部 = 500 講座旧石器(一般) 1,200 × 6 部 = 7,200 講座動向(一般) 500 × 2 部 = 1,000 講座災害(一般) 700 × 10 部 = 7,000 講座災害(委託0.8) 560 × 9 部 = 5,040 講座時空(会員) 200 × 8 部 = 1,600 講座時空(一般) 500 × 15 部 = 7,500 講座時空(委託0.7) 350 × 20 部 = 7,000 講座相模国(共通) 400 × 220 部 = 88,000
雑収入	5,000	357	▲ 4,643	預金利子 他 357
繰越金	2,077,012	2,077,012	0	2,077,012
合計	3,290,012	3,321,669	31,657	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明	予算額	決算額
事務局費	200,000	137,969	▲ 62,031	①連絡費	50,000	34,710 総会案内発送、依頼文発送等
				②事務費	40,000	16,829 コピー代、インク代など
				④行事開催費	5,000	6,080 日本考古学協会図書交換会参加費
				⑥会場借上費	25,000	18,670 総会、役員・幹事会会場費
				⑦旅費	50,000	35,720 役員・幹事会交通費
				⑧手数料	30,000	25,960 会費納入手数料、印刷物振込手数料
				①連絡費	5,000	431 切手代、メール便など
				②事務費	5,000	2,040 スキャン代
会誌費	1,110,000	2,471	▲ 1,107,529	③印刷費	1,100,000	0
連絡誌費	160,000	146,990	▲ 13,010	①連絡費	3,000	246 メール便
				②事務費	7,000	9,636 封筒、ラベル代、会場賃借費など
				③印刷費	150,000	137,108
				①連絡費	10,000	9,789 メール便など
発表会費	269,000	127,080	▲ 141,920	②事務費	9,000	2,653 コピー用紙購入など
				③印刷費	200,000	111,401 チラシ、発表要旨
				④行事開催費	35,000	3,237 発表者お弁当・飲料水代
				⑤謝礼	15,000	0
				①連絡費	5,000	18,720 ハガキ代
講座費	338,000	259,820	▲ 78,180	②事務費	3,000	1,621
				③印刷費	250,000	181,440
				④行事開催費	35,000	30,659
				⑤謝礼	45,000	27,380 講師謝金、講師交通費
				①連絡費	55,000	54,897 ハガキ代、切手代
見学会費	91,000	60,008	▲ 30,992	②事務費	6,000	4,811 インク代
				④行事開催費	20,000	300 入場料
				⑤謝礼	10,000	0
				②事務費	15,000	0
				⑤謝礼	5,000	0
ホームページ 運営費	40,000	16,200	▲ 23,800	⑥借上費	20,000	16,200 サーバー料金、ドメイン更新
記念事業 準備金	335,000	330,480	▲ 4,520	①連絡費	5,000	0
				②事務費	5,000	0
				③印刷費	325,000	330,480
予備費	747,012	0	▲ 747,012		747,012	0
合 計	3,290,012	1,081,018	▲ 2,208,994			

* 収入(3,321,669 円) — 支出(1,081,018 円) = 次年度繰越金(2,240,651 円)

会計監査報告

2014年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2015年4月19日

監 事 大 上 周 三

鈴木 次郎



議事4 2015年度収支予算

2015年度収支予算(案)

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	975,000	1,008,000	▲ 33,000	会費 3,000 × 325 名 = 975,000 (会員数328名、内3名は2014年度に納入済み)
機関誌等 売り上げ	200,000	200,000	0	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売上
雑収入	1,000	5,000	▲ 4,000	預金利子/雑収入等
繰越金	2,240,651	2,077,012	163,639	
合計	3,416,651	3,290,012	126,639	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	190,000	200,000	▲ 10,000	①連絡費 50,000 総会案内状、会費納入依頼等発送 ②事務費 30,000 会議資料作成、既刊行物発送、消耗品購入 ④行事開催費 5,000 総会・トピックス会場使用料 ⑥借上費 25,000 役員会等会場使用料 ⑦旅費 50,000 役員会等、会議交通費(2013年度分) ⑧手数料 30,000 会費等振込手数料
会誌費	1,610,000	1,110,000	500,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付、20周年記念論集発送 ②事務費 5,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 1,600,000 考古論叢21～24集発行・発送
連絡誌費	160,000	160,000	0	①連絡費 3,000 事務連絡等の送付 ②事務費 7,000 会議資料作成 ③印刷費 150,000 連絡誌52号・53号の発行
発表会費	269,000	269,000	0	①連絡費 10,000 事務連絡等の送付 ②事務費 9,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 200,000 第38回発表要旨発行、チラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 ⑤謝礼 15,000 外部講師依頼 15,000円 × 1人
講座費	338,000	338,000	0	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 3,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 250,000 講座要旨および前年度記録集の発行、チ ラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 ⑤謝礼 45,000 外部講師依頼 15,000円 × 3人
見学会費	90,000	91,000	▲ 1,000	①連絡費 55,000 案内状等送付 ②事務費 5,000 会議資料作成、消耗品購入 ④行事開催費 20,000 博物館入館料等 ⑤謝礼 10,000 協力者謝礼
ホーム ページ運 営費	40,000	40,000	0	②事務費 15,000 会議資料作成、ソフトウェア・消耗品購入 ⑤謝礼 5,000 協力者謝礼 ⑥借上費 20,000 サーバー使用料
PDF化	85,000	335,000	▲ 250,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 0 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 80,000 既刊行物のデジタル化
予備費	634,651	747,012	▲ 112,361	
合計	3,416,651	3,290,012	126,639	

『発掘された日本列島』展の回顧と未来
一見学会に参加して一

9月6日(土)午後、東京都江戸東京博物館で開催されている「発掘された日本列島 2014」を見学しました。9月に入ったばかりで少し蒸し暑い日でしたが、会員 17 名の参加がありました。今回の展示は、「発掘された日本列島」展 20 周年を記念した「20 周年記念 日本発掘」と震災復興関連調査速報展「復興のための文化力」、最新速報展の 3 部構成でした。

予のない、被災された人々の生活を再構築するという行為の中で、詳細な遺跡調査を実施し文化財保護を遂行することこそ、日本の本当の「文化力」と言えるのでしょう。

『発掘された日本列島 2015
新発見考古速報』見学記

2015年7月18日(土)、東京都江戸東京博物館を会場に開催された『発掘された日本列島 2015』を見学会として参加してきました。

当日は台風の影響がまだ残る南風の強い時折雨もばらつく生憎の天気でしたが、会長・副会長以下見学会役員も含めて22名の参加者が博物館3階「江戸東京ひろば」に集合しました。最近この行事に参加する会員の皆さんの顔ぶれが固定化しつつあるのではないと気にはなっていたのですが、昨年入会した会員の方も参加され一寸だけ安心しました。まずは恒例の参加者全員で記念写真撮影からスタートと例年通りのスケジュールで始まりました。

今回の列島展は「新発見考古速報」と題し、注目の全国 19 遺跡の速報展示と、「復興のための文化力」と

題した東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の両立を図るテーマ展示、「全国史跡整備市町村協議会 50 周年」を記念し、史跡整備の 2 遺跡の紹介からなる 3 部構成でした。この 3 部構成の展示も固定化しつつあり、個別の展示に工夫は見られましたがまた違った展示も見てみたいと感じました。個人的にはやはり新発見考古速報の展示が全国から選りすぐられた注目の遺跡の情報を僅かな交通費だけで知ることができるのが列島展のメリットではないかと思っています。また展示にかかわった文化庁の係りの方から展示解説を伺いながら見学することができるのも、より理解が深まる見学の仕方だと思います。なお今回の展示解説が始まるまで 30 分以上待ち時間があつたのは参加者の平均年齢を考えると配慮に欠け、事前に説明開始の時間を調べて集合時間を設定していただけるよう次回以降の見学会の改善点として指摘しておきたいと思います。

今回展示の目玉は、入り口部に並ぶ栃木県下野市の甲塚古墳から出土した埴輪群で、ポスター・パンフレット・入場券にも写真が使用されたものでした。しかし最も注目すべき埴輪は残念ながらこれらの写真には使用されなかったものでした。その埴輪は、白地に真っ赤な水玉をあしらった衣装を身にまとった地機を織る女性の埴輪と、白い化粧土が塗られた白馬の埴輪でした。二つの埴輪はいずれも彩色の残りが悪く、女性の埴輪は頭部が見つからなかったため写真からはずされてしまったのではないかと勝手に想像しました。この埴輪は水玉で有名な現在のアート作家の作品にも通じる目を引くもので古墳に樹立されていたときもひととき目立つ埴輪であつたろうと思います。この他、九州の大



写真 1: 文化庁担当者の説明に耳を傾ける見学者



写真 2: 集合場所に会した参加者のみなさん

宰府関連遺跡から見つかった階級を示す石製のベルトの飾りが大宰府長官クラスの人物が身に着けるもので、その人物は我々も良く知っている有名な人物(係りの方から、誰でしょうかと宿題にされました)が身に付けていた可能性が高い。という説明に皆さん興味津々みたいでした。また展示品の中で唯一、紫の袱紗の上に鎮座していた中国産の完形の青磁はやはりひととき異彩を放っていました。そしてお酒の好きな私が思わず注目したのが、あの電気ブランで有名な神谷伝兵衛が茨城県牛久市に作ったシャトーカミヤ旧醸造施設が調査され紹介されていたコーナーでした。文化庁の係りの方の説明終了後、質疑応答を行ない皆さん満腹状態で今回の見学会は解散となりました。

その後、まだ行けるという有志は旧新橋停車場 鉄道資料展示室を目指して新橋駅に移動し、現地保存されている旧新橋停車場駅舎やプラットホームの一部などを見学しました。また展示室では企画展の「野球と鉄道」を見学しましたが、男性の比率が高かったためか鉄道のためか、本来の見学会以上の興味の示し方を見せている方もいらっしゃいました。

見学後は反省会を行ないましたが、ボランティアの学生に本人の勉強のためだから質問すべきか否かなどの話題で一頻り盛り上がりました。また今後の活動について役員の皆さん方は相談されていました。私は見学を終えてみて、調査に時間とそれに見合う費用が準備される遺跡や、保存される極一部の遺跡と、そうではない大多数の遺跡との違いは何か。両者の差はいたいどれ程のものなのかなど、根本的なことが頭の中を巡ったまま帰路につきました。

第39回遺跡調査発表会を開催いたします！

今回の発表会では、最新の調査・研究成果の発表とともに、ここ数年県下の発掘調査で成果の著しい伊勢原の中世遺跡にスポットをあてて、都市鎌倉との比較を試みています。
みなさま、こぞってご参加ください！！

日時：2015年11月15日（日） 10時～16時40分

会場：横浜市歴史博物館 申込不要・入場無料 ※発表要旨は当日実費にて頒布

同時開催：図書交換会

主催：神奈川県考古学会 共催：横浜市歴史博物館

後援：神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／川崎市教育委員会／相模原市教育委員会／
（公財）かながわ考古学財団

特集テーマ：中世の鎌倉と伊勢原

特別講演：玉林美男氏（鎌倉市教育委員会）「鎌倉市の寺院遺跡について」

発表遺跡：

（AM）塚越古墳（川崎市）、上粕屋・和田内遺跡（伊勢原市）、大蔵幕府跡（鎌倉市）

（PM）子易・中川原遺跡／子易・大坪遺跡（伊勢原市）、浄業寺跡2次／三ノ宮・上竹ノ内遺跡（伊勢原市）、神成松遺跡第6地点（伊勢原市）、北仲通一丁目遺跡（横浜市）

※詳しくは、同封の発表会案内チラシをご覧ください。

※開催会場への直接のお問い合わせはご遠慮願います。

お詫びとお知らせ

- 本誌53号のセピア考古学雑記にてインタビューにお答えいただいた小川裕久さんのお名前が冒頭のご紹介記事の部分にて「裕之」となっておりました。正しくは、「裕久」さんです。お名前を誤植するという大変な失礼をしてしまいました。ここに記してお詫び申し上げます。
- 2014年度の見学会記は、小池聡さんから見学会直後にご寄稿いただいていたのですが、連絡誌側の不手際により、2号遅れの掲載となってしまいました。大変失礼をいたしました。
- 2008年度から2014年度までの6年間にわたり役員として当会の運営と発展に尽力されてこられた山田光洋さん、永田史子さん、中三川昇さん、井出智之さん、服部みはるさん、鯉淵義紀さん、橋口豊さん、お疲れさまでした。
- 新たに役員に着任された村澤正弘さん、平山尚言さん、齋藤真一さん、よろしくお願いいたします。

編集後記

21世紀に入り、大規模な発掘調査が激減してきましたが、ここ数年の神奈川県では、開発に伴う広範な緊急発掘調査の事例が増加の傾向にあります。史跡指定にまで漕ぎ着けられた遺跡の何倍もの遺跡が記録保存という名の発掘調査の末に消えさっています。緊急発掘で明らかにされる新たな知見は、遺跡の破壊と裏腹の関係にあります。発表会や見学会はその貴重な成果に直に触れられる好機です！
ぜひ、ふるってご参加ください！！

考古かながわ 第54号

発行 神奈川県考古学会
発行日 2015年10月15日
編集 連絡誌部会：桑原・高橋・古田土
印刷 （有）湘南グッド
発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之
郵便振替 00240-9-71208
E-mail soumu@koukokanagawa.com
URL <http://www.koukokanagawa.com>